

特定非営利活動法人



〒360-0002  
熊谷市大塚 253-1  
TEL/FAX  
048-525-9290  
代表理事 高岸加津子

就労継続支援B型 第3号 ゆりかご だより 平成22年5月 発行



## —日本財団から移動販売車の助成—

就労継続支援B型になり、一日の生活が散歩中心から仕事重視となった。しかし、バリ取り・リサイクルの仕事を一生懸命にやっても、21年4月時点では、メンバーの月平均工賃が2,000円だった。埼玉県の就労継続支援B型事業所の月平均工賃は12,000円だそうだ。かなりの格差がある。何か考えなくてはと皆で考え、いろいろな意見が出た結果、食べ物を売るのが一番の利益になるという結論になった。

納涼祭等で焼いて評判がいい行田名物B級グルメ「フライ」と、道具があればできそうな「石焼き芋」を販売しようということになり、さっそく保健所の営業許可が下りるか調べた。施設内で作るのでは営業許可は下りない。どうしよう。また皆で考えた。移動販売車があれば車に許可が下りることがわかったが、資金源がまったくないので、どこか助成で車を頂くことはできないか調べてみた。

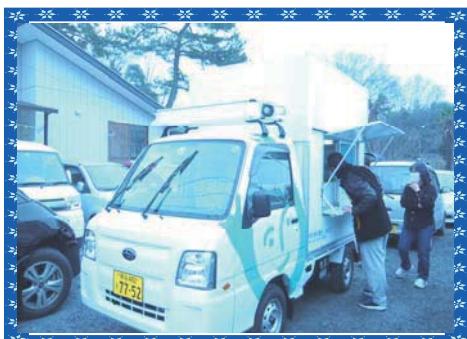
日本財団の「障害者就労支援のための車両」という助成で移動販売車が頂けることがわかった。駄目元で応募してみたものの審査結果ができるまでの間、祈る気持ちで日々を過ごした。21年11月に「移動販売車助成決定」の書類を見て、皆が大喜びをしたのを今でも忘れない。

移動販売車は特殊車両なので、造る業者も限られてくる。関東近郊の業者をインターネットで調べて、何社かに熊谷まで入札に来てくれるか電話をする。ほとんど「遠い」という理由で断られ、1社だけ引き受けてくれた。東京都武蔵村山市のケルンという業者だった。有り難かった。11月にすぐ製作依頼の電話をし、車が出来上がって納車されたのが2月26日だった。その日は小雨が降っていたが、皆が外に出てきて操作の説明をきいた。しかし、嬉しそうに車をずっと眺めていたので説明はほとんど耳に入らなかった。

障害者自立支援法が施行され、21年3月31日までに就労継続支援B型事業所に移行をしようと決めた19年冬から22年までの間、NPO法人設立、就労継続支援B型になるための施設増築、引越し、工賃UPのための移動販売車助成と目まぐるしい日々を過ごした。この3年間のことを振り返ると、NHKのプロジェクトXで番組を作れるほど忙しく充実していた。

中島みゆきの歌が聴こえてくるような気がする…♪

♪～風の中の昴 草原のビーナス みんなどこへ行った～♪



## 一ゆりかご看板商品フライドッグとフライ

惜しまれつつ終わった焼き芋販売から引き続き、4月12日からフライ販売を始めました。



フライを始めるにあたり、職員会議のたびに行田で有名な店のフライを買って味見をしたり、ゆりかご周辺のフライ店をリサーチしてみた。大きさと値段の違いだけで味はあまり大きな差はなかった。

ゆりかごまで、わざわざ買いに来てくれるお客様を増やすには、ゆりかご独自のものを、と毎日考えたがなかなかいい案は見つからなかった。

ある日、保険営業のHさんとフライの話しをしていた時、Hさんが「フランクフルトをフライの中に入れても面白いですよね」と言った何気ない言葉がヒントになって、**フライドッグ**が誕生した。早速、いろいろな会社からロングワインナーを取り寄せて作ってみた。「おいしい」「これは売れる」とみな自画自賛だった。はたして売れるかどうかまったくわからないが、少しずつでいいから評判になり口コミでフライドッグを買いに来てくれるお客様が増えるように願っている。

フライ・フライドッグの主材料は小麦、ネギ、卵なので、小麦・ネギは地元の農家と、卵も地元の会社と契約をした。地産地消(地域生産地域消費)をめざしていこうと思う。

メンバーの仕事として、準備の仕事(のぼり旗立て・ネギを切る・小麦粉を溶く)、販売の仕事(会計・品物を渡す)、容器のシール貼り等があり、一人一人できる仕事をやり、皆、意欲・責任感が少しずつであるがでてきている。



余談だが、移動販売車でフライを焼くと車の中の温度が高くなり、外が寒い時でも車の中では汗だくなってしまう。「これじゃあ夏は暑くて焼く係の人は瘦せちゃうよ」と心配してくれた人がいた。大丈夫です。焼く係の女性2人はポッチャリを超えた体型なので痩せても丁度よくなります。それに焼くのを失敗したフライは責任を持って内緒で食べているので、きっと痩せませんよ。(^-^;)

## 熊谷特別支援学校の卒業式に呼ばれて —

3月17日、卒業式に来賓として招待していただきました。

娘たちの卒業式から何年もたっているので、久しぶりの雰囲気にちょっと緊張。

体育館に続く廊下には、おしゃれをした卒業生が嬉しそうに並んでいました。



小学部・中学部・高校部同時の卒業式。

小学生は可愛らしく、中学生はちょっと大人っぽく、そして高校生は凛として…

今日まで沢山の先生方に支えられて送ってきた学生生活。

恵まれた校舎、長い間一緒に過ごしてきた気の置けない仲間たちとの楽しい学生生活、辛かったこと、悲しかったこと、笑い話などなど思い出は沢山あるでしょうね。

明日からは、守られた生活も仲の良かった仲間ともお別れして、それぞれの社会に進んでいくのですね。みんな頑張って～。

知り合いの産婦人科医が、障害を持って生まれてきた赤ちゃんを取り上げた時、お母さんにどう伝えようか、どんな反応があるだろうかと不安な気持ちで赤ちゃんを渡したそうです。

その時お母さんは、「大丈夫です。我が子ですから。」と言ったそうです。

それを聞いた先生は喜びを隠せなかつたと涙をこぼしながら話してくれたことを思い出しました。

今日の親御さん達もきっとこんな想いを感じ、障害を持ってきたことを受け入れるまで色々な心の葛藤や私達の想像の出来ない様々なご苦労があった事だと思います。

しかし、そんなことは微塵も感じさせないご家族の明るくそして前向きな姿は、同じ親として頭が下がる想いでした。

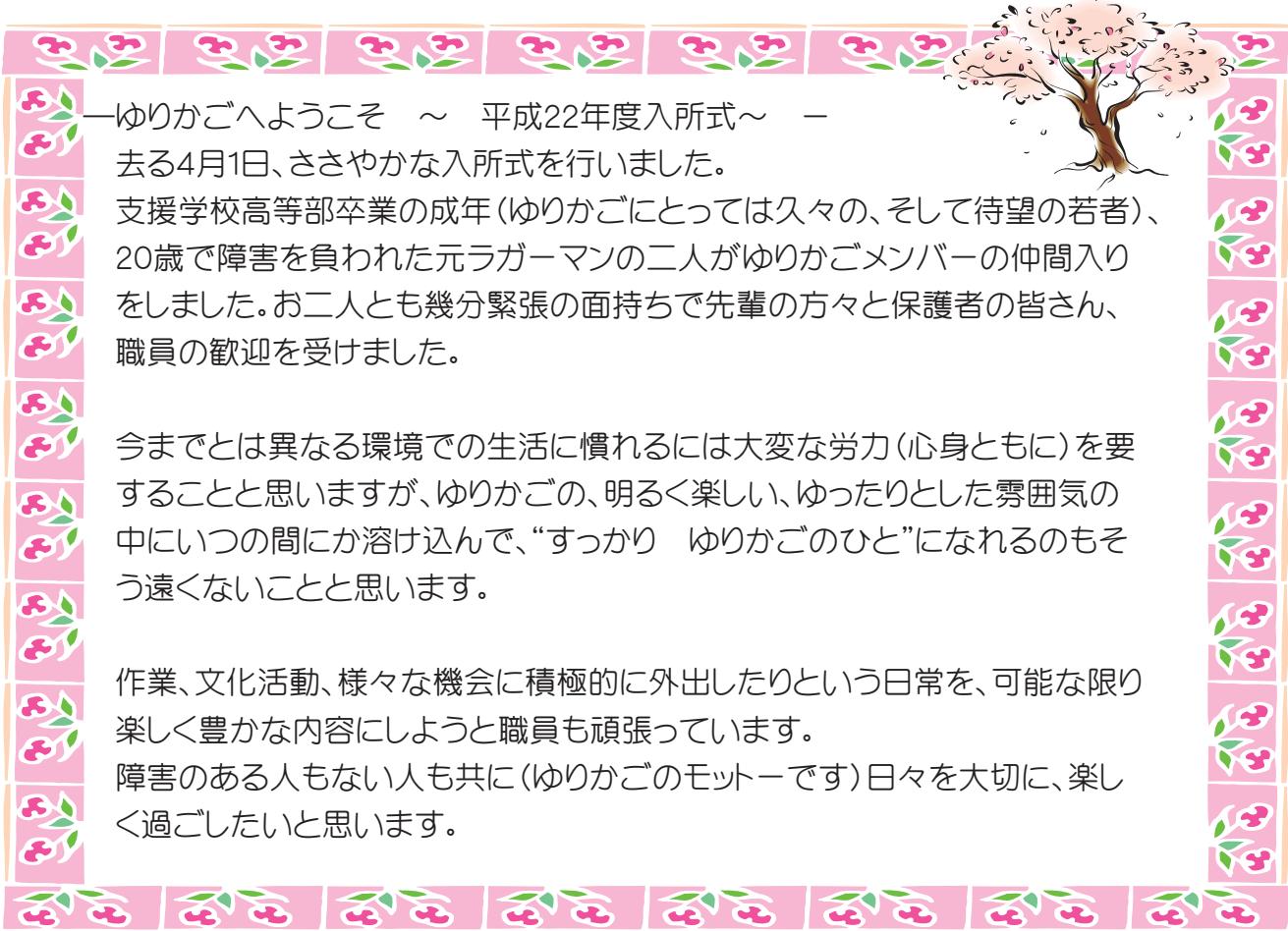
ご本人は元より親御さんの今日のこの日の喜びは本当に大きなものだと思います。

卒業生の皆さんそしてご家族の皆さん、本当におめでとうございます。

これからも沢山の想いを抱えながらの毎日だと思いますが、一緒に頑張っていきましょう。

そんな事を思いながら出席させていただいた卒業式でした。





## —ゆりかごへようこそ～平成22年度入所式～—

去る4月1日、ささやかな入所式を行いました。

支援学校高等部卒業の成年(ゆりかご)にとっては久々の、そして待望の若者)、20歳で障害を負わされた元ラガーマンの二人がゆりかごメンバーの仲間入りをしました。お二人とも幾分緊張の面持ちで先輩の方々と保護者の皆さん、職員の歓迎を受けました。

今までとは異なる環境での生活に慣れるには大変な労力(心身ともに)を要することだと思いますが、ゆりかごの、明るく楽しい、ゆったりとした雰囲気の中にいつの間にか溶け込んで、“すっかり ゆりかごのひと”になれるのもそう遠くないと思います。

作業、文化活動、様々な機会に積極的に外出したりという日常を、可能な限り楽しく豊かな内容にしようと職員も頑張っています。  
障害のある人もない人も共に(ゆりかごのモットーです)日々を大切に、楽しく過ごしたいと思います。

## —他NPOとのコラボレーション—

4月17日、18日にNPO法人埼玉ガーデン・ガーデニングさんが、一般家庭のお庭を開放するイベント「オープンガーデンくまがや 2009」を行ない、ゆりかごも一部のご家庭の駐車場をお借りしてフライ・フライドッグの移動販売をしました。

たくさんの方が花を観た後、フライやフライドッグを買ってくださいました。

今後もいろいろなNPOや、販売場所の提供のお声を掛けてくれる方たちとの関わりがもてたら素晴らしいことだと思う。

因みに5月3日は深谷市の正福寺で、15・16日はまたNPO法人埼玉ガーデン・ガーデニング代表のお宅のバラガーデンで、30日熊谷文化公園で開催される「スピカまつり」で移動販売させていただく予定です。  
お近くの方はお立ち寄りください。



## 一ゆりかご看板商品フライドッグとフライ

惜しまれつつ終わった焼き芋販売から引き続き、4月12日からフライ販売を始めました。



フライを始めるにあたり、職員会議のたびに行田で有名な店のフライを買って味見をしたり、ゆりかご周辺のフライ店をリサーチしてみた。大きさと値段の違いだけで味はあまり大きな差はなかった。

ゆりかごまで、わざわざ買いに来てくれるお客様を増やすには、ゆりかご独自のものを、と毎日考えたがなかなかいい案は見つからなかった。

ある日、保険営業のHさんとフライの話しをしていた時、Hさんが「フランクフルトをフライの中に入れても面白いですよね」と言った何気ない言葉がヒントになって、**フライドッグ**が誕生した。早速、いろいろな会社からロングワインナーを取り寄せて作ってみた。「おいしい」「これは売れる」とみな自画自賛だった。はたして売れるかどうかまったくわからないが、少しずつでいいから評判になり口コミでフライドッグを買いに来てくれるお客様が増えるように願っている。

フライ・フライドッグの主材料は小麦、ネギ、卵なので、小麦・ネギは地元の農家と、卵も地元の会社と契約をした。地産地消(地域生産地域消費)をめざしていこうと思う。

メンバーの仕事として、準備の仕事(のぼり旗立て・ネギを切る・小麦粉を溶く)、販売の仕事(会計・品物を渡す)、容器のシール貼り等があり、一人一人できる仕事をやり、皆、意欲・責任感が少しずつであるがでてきている。



余談だが、移動販売車でフライを焼くと車の中の温度が高くなり、外が寒い時でも車の中では汗だくなってしまう。「これじゃあ夏は暑くて焼く係の人は瘦せちゃうよ」と心配してくれた人がいた。大丈夫です。焼く係の女性2人はポッチャリを超えた体型なので痩せても丁度よくなります。それに焼くのを失敗したフライは責任を持って内緒で食べているので、きっと痩せませんよ。(^-^;)



載った！ 乗った！ のった！  
4月23日(金)付け読売新聞の別紙「埼北よみうり」  
(地域情報誌)に、ゆりかごのフライ販売の紹介記事  
事が掲載されました。

翌日、早速ゆりかごに販売時間などの問い合わせの電話があり、さすが効果は大きいと実感しました。白黒写真入りで、移動販売者の前でフライが焼きあがるのを待っているメンバー2人の後ろ姿と、お皿にのったフライとフライドッグが写っています。

NPO ゆりかご 移動販売車でフライを販売』の太い文字が見出しに踊っていて、なんだか嬉しくなります。

また、ゆりかごが以前メンバーの絵や書などの作品展を、店内でやらせて頂いたコーヒーのおいしいお店 “ベあばれい” のブログにも、フライ販売の様子が載っています。写真の中で、フライドッグにかけたソースの照りがツヤツヤとかがやいて、とても美味しいぞうにみえます。

(フライドッグとは、多分他所ではあまり売っていないフライだと思います。他では無いフライドッグをゆりかごの売りにしていきたいと思っています。)

新聞の記事もブログの内容もどちらも好意的で、きちんとこれまでの経緯を伝えていただき、本当にありがとうございました。

いまのところ、焼き芋をご贔屓にして下さった方が、引き続きフライも買って下さる焼き芋つながりの方が4割。

写真には写っていませんでしたが、車道に面して立てた7~8本のカラフルなフライとフライドッグの、のぼりに釣られてちょっと車を止めて買って下さる方が1割。

地元大塚や近辺のご近所つながりの方が1割。

残りはメンバーと職員のお昼や、家族へのお持ち帰りで、合わせて4割です。

メンバーの社会参加と収入アップをめざし、新聞やブログをみて、

少しでも多くの方が、ゆりかごのフライやフライドッグに興味をもって、

一回食べてみたいなと思って下されば嬉しいです。

※ベあばれいのブログを是非ご覧下さい。

<http://bear0810.exblog.jp/i3/>

ギャラリー案内や、映画・本の紹介、クイズなどもあり  
楽しい内容満載です！



第765号

NPO ゆりかご 移動販売車でフライを販売

著者のある人達が作業や  
このを支える熊谷市のN  
創活動を行うことで、社会  
P.O法人の会員（大塚2  
53-1・高橋加津子代表）

（熊谷市）

このを支える熊谷市のN  
創活動を行うことで、社会  
P.O法人の会員（大塚2  
53-1・高橋加津子代表）

（熊谷市）



ゆりかご名物 (!?)  
フライドッグ

下池守にお住まいの方から電動自動車を寄付していただきました。

家の行動が楽になった、行動範囲が広がった、といただいたメンバーは大喜びです。



市内の学習塾エール学院から、沢山のイスとテーブルをいただきました。  
早速メンバーが使わせていただいています。  
他の施設にもお裾分けしました。

ありがとうございます

ゆりかごの事を忘れずに思い出してください  
る皆さんに心から感謝いたします。



ご近所の中条中学校福祉部の生徒さんが、アルミ缶を集めて売ったお金の一部を届けてくださいました。  
毎年こうして寄付を届けてくださいます。  
本当に感謝でいっぱいです。

行田市内「やごう幼稚園」から、今回も沢山の段ボールをいただきました。



「新聞・アルミ缶が集まつたので取りに来てください。」月に1・2度、市内にお住まいの主婦の方が電話をくださいます。  
毎回車いっぱいいただいて帰ってきます。



素敵なご婦人です

ご希望があれば移動販売に伺います  
近隣であればどちらでも…  
詳しいことは要相談！

フライドッグ・フライ販売  
11時～2時

休み  
土・日・祭日・年末年始  
ゴールデンウィーク  
時短休木業右

電話での予約注文あり！



義助会員募集中

年会費・1□1000円～  
会報を送らせて頂きます。



### 編集後記

今年で結婚31年目になる私達夫婦。

娘や孫達と忙しくも楽しく過ごす毎日。結婚記念日を目前に 31年前の結婚した頃を思い出した。まだ若かった母は末っ子の私達夫婦の元によく遊びに来てくれる中を使いやすいように片づけてくれたり、色々買ってくれたり、お小遣いを置いていってくれたりと私はいつも母に甘え放題だった。90歳近くになった母に改めて母の有難さ、温かさを思い出し、声が聞きたくなった。

親孝行をしなくちゃ。取りあえず今晚電話をしようと思った。